

## 緩和ケア療法委員会の現状と未来

高橋 睦子

キーワード：おれんじの会；非がん患者；緩和ケア認定看護師

(雲南市立病院医学雑誌 2019; 16(1): 173-174)

### はじめに

緩和ケアとは、生命を脅かす疾患にともなう問題に直面している患者とその家族にとっての身体や心のつらさ、苦痛を和らげ、できるだけ快適な生活が送れるように支援する医療である。

### 現状について

当院の緩和ケアは、平成24年4月の「緩和ケアチーム (palliative care team、以下PCT)」として発足し、緩和ケアで入院中の患者、家族の支援をする目的で活動を始めた。チームメンバー有志が「おれんじの会」として、緩和ケアの学習・意見交換をできる場も設け、研鑽に努めた。平成30年度からは、「緩和ケア療法委員会」となり、月1回の定例会議、研修、ケースカンファレンスを、多職種協働でおこなうことで、より良い緩和ケア提供できる体制となった。現在、奥田淳三医師(外科)を委員長とし、事務局5名と、看護師、保健師、栄養士、薬剤師、リハビリテーション技師、放射線技師と、多職種スタッフのメンバーで構成している。特に、病棟看護師は病棟リンクナースとして、新規介入ケースの抽出、カンファレンスの設定などを担っている。平成30年には、竹田知華看護師が緩和ケア認定看護師資格を取得し、チームの活動の重要な役割を果たしている。

そのほか、院内での緩和ケア研修会を毎年計画しており、平成30年度は、雲南市在住のシンガー・ソン

グライターの白築純さんの院内ミニコンサートを行ない、その人らしく生きることについて共に考える事ができた(図1)。院外の研修にも参加し、知識の習得と院内での活動に活かせるように心がけている。

### 未来について

現在は入院患者に対する関わりが主であるが、今後、入院・外来の切れ間のない緩和ケアができるように院内の連携をしてきたい。また緩和ケアは、非がん患者も対象であり、施設や在宅でも必要であると考え。今後は、地域の方々にも、緩和ケアについての知識を深めて頂けるよう認定看護師を中心に出席講座を計画していく予定で、奥田医師は「まだまだ手探りの状態であるが、みんなで雲南ならではの緩和ケアを作り上げていきたい」と意気込んでいる。



図1 緩和ケア研修会

Present status and future perspective of the committee  
for palliative care in Unnan City Hospital.

Mutsuko Takahashi

---

Committee for palliative care, Regional cooperation office, Health care center, Unnan City Hospital  
Correspondence: Mutsuko Takahashi, Regional cooperation office, Health care center, Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho  
Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN]  
Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501  
E-mail: hospital-renkei@city.unnan.shimane.jp